

大学広報における学生による情報発信の成果と課題

－「コロナ禍」の中で学生向けプレスリリース研修会を実施して－¹

1. はじめに

1.1. 背景

愛媛大学の第3期中期計画では、大学の全構成員が広報活動の担い手となり、学内での情報の共有化や多様な情報発信機能を活用し、地域・社会に向けた効果的な情報発信をしていくことを目指している。そのため、大学の広報活動をより効果的なものにするため、広報室では、全学の広報活動にかかわる方針の検討や計画の策定を担うとともに、パブリシティ活動等、施策の実施と評価を行っている。

大学広報においては、近年の少子化の流れを受けて、入学者確保や大学イメージの向上に向けた組織的な広報戦略の重要性が高まっている。国内における大学広報の取り組みに関する先行研究には、地域密着型大学の広報戦略に関する報告（川戸ほか、2004）、オープンキャンパスの影響力に関する報告（平尾ほか、2011）、大学広報の高校生の大学選択への影響を分析したもの（Maringe, 2006）、入試広報の効果を検証した研究（村松ほか、2007；望月、2008）、プレスリリースや新聞記事の分析をもとに、大学等の研究成果がどのように報道されているのかを調査した研究（西澤ほか、2013）、広告媒体を用いた際の効果の測定を試みた研究（竹内、2010）等が存在したが、本稿で報告する、学生による情報発信やプレスリリースに焦点を当てた研究は見当たらなかった。

本学広報室では、「学生による情報発信をさらに推進するため、大学生活に関する生の声を主体的に発信できる方法を検討する」ことを2020年度の年度計画と定め、「学生による情報発信プロジェクトチーム」（以下、「学生情報発信PT」とする）を立ち上げ、多くのステークホルダー（地域住民、大学関係者等）に向けた情報発信プロジェクトを開始した。

本プロジェクトでは、「学生による情報発信」により、学生の情報発信スキルの獲得支援が可能となることに加え、学生が大学広報に関与することで、学内の学生活動に関する情報を効率的に収集し、きめ細かい広報活動につなげることを目指した。

プロジェクトを推進する学生情報発信PTメンバーは広報室員であり、学部教員、教育・学生支援機構教員、広報

課長の4名で構成されている。推進にあたっては、広報課職員が事務的業務を担当するとともに、広報室長、副室長からの相談・助言等を踏まえ、教職協働により推進した。

以下、学生情報発信PTの2020年度実施計画の取り組みの中から、学生向けプレスリリース研修会に焦点を当て、その活動と成果、今後の課題について報告する。

1.2. 目的

愛媛大学広報室では、年度計画として学生の生の声や活動が、地域住民等のステークホルダーに認知される機会につなげることをめざし、学生によるプレスリリースの発行を企画した。

企画では、研究活動、社会連携、地域実践、国際交流、部活動、サークル活動、課外活動といった学生の活動を紹介するプレスリリースを、学生自身が作成・発行することを通じて、情報発信スキルを学ぶ機会とするために愛媛大学・学生向けプレスリリース研修会（以下、研修会とする）を実施した。

本稿では、情報発信の推進を目的として実施した取り組みを学生アンケート結果およびメディア・新聞等の取材陣への調査結果について考察するとともに、今後の課題について報告する。

1.3. 学生による情報発信プロジェクトチームでの検討

当初、2020年度の取り組みの一環として、数回の研修会を計画していた。しかし、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大のため、予定していた回数での実施は困難な状況となったことにより、1回開催に内容を集約するとともに、3密回避などの感染防止対策を万全に行い、大学内の機関等の承認を得て開催した。

2. 方法

2.1. 学生向けプレスリリース研修会

2.1.1 概要

学生向けプレスリリース研修会は、次の日程で開催した。
日 時：2020年11月11日（水）13時から16時
場 所：愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージアム アク

¹執筆担当：仲道 雅輝^{1) 2)}、井口 梓^{2) 3)}、桐野 律子^{2) 5)}、富永 真奈美⁵⁾、徳田 明仁^{2) 4)}、若林 良和^{2) 3)}、1) 教育・学生支援機構教育企画室、2) 広報室、3) 社会共創学部、4) 愛媛大学ミュージアム、5) 総務部広報課

ティップ・ラーニングスペース2教室

講師：愛媛大学社会共創学部 准教授 井口 梓

テーマ：「自分の実践活動を自分で情報発信！」

－広報プレスリリースのススメ－

主催：愛媛大学広報室

参加者募集：学内掲示およびメールによる配信（図1）

定員：24名（愛媛大学の学部生もしくは大学院生であれば学年は問わず）

図1 研修会参加者募集チラシ

表1 研修会の内容とスケジュール

| | |
|-------|---|
| 13:00 | <p>(講義)</p> <p>1. 「プレスリリースのススメ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレスリリースとは何か？ ・プレスリリースの書類の作成方法 ・広報スケジュールの立て方 ・プレスリリースする際の注意点 <p>2. 「フライヤーのススメ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フライヤーの役割 ・フライヤーの作成方法 ・フライヤーのデザイン |
| 14:20 | <p>(演習)フライヤー制作実践</p> <p>※ペアに分かれて、PCを活用して作業を進める</p> |
| 15:30 | <p>(発表)評価・改善</p> <p>※受講者および講師よりアドバイス</p> |

2.1.2 内容

研修会の内容およびスケジュールは、「プレスリリースまでのプロセス」「大切なルール」「リリース書類の書き方」「フライヤーの作成方法」等に関する講義とプレスリリースに用いるフライヤーの作成演習を行い、参加者間で発表を行った。詳細は、表1のとおりである。

2.2. コロナ禍における学生向けプレスリリース研修会開催の対応

新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、会場では、健康状況の確認（健康チェック票の記録と確認、当日の体温測定）、手指消毒の徹底、マスクの常時着用、学生間にパーティション設置、フェイスシールドの使用、ソーシャルディスタンスの確保、飲食禁止などの感染予防策を実施した(図2)。さらに、参加者間の距離を保持できるよう募集定員を制限し、従来の収容定員の半数とした。



図2 感染予防策

2.3. 学生アンケートの実施

参加学生に、研修会に関するアンケートを実施し、意見や感想を記入してもらった。アンケートは研修会終了後会場にて、アンケート用紙を配布し回収した。得られた回答は、選択式の回答は単純集計し、記述式については誤字・脱字のみ修正してまとめた。

2.4. 取材を決定する経緯に関するメディア担当者への聞き取り調査の実施

学生のプレスリリースを見て、取材依頼のあったメディア担当者2名に、趣旨を説明の上、調査への協力を依頼し、2名から回答を得た（A新聞社1名、B地方テレビ局1名）。

メディア担当者への質問内容を以下に示す。

- ①取材をしようと思った理由
- ②学生によるプレスリリースであったことの影響

3. 結果

3.1. 学生向けプレスリリース研修会の成果

応募者23名の内当日に体調不良となった者1名が欠席となり、参加者は22名であった。参加者の所属学部は、3学部（社会共創学部18名、法文学部2名、教育学部1名）、1研究科（理工学研究科1名）であった。学年は、1回生4名、2回生8名、3回生6名、4回生2名、5回生1名、大学院生1名であった。



図3 研修会の様子

研修会（図3）を受講し、ペアでプレスリリースシートとフライヤー（チラシ）を作成した（図4）。作成後、各メディアへ送り（投げ込み）、メディアからの取材、放映、掲載等の反応につながった（表2、図4）。

表2 学生によるプレスリリースと取材等一覧

| | タイトル・内容 等 | 取材・掲載・放映 |
|---|---|--|
| 1 | 環四国サイクリングプロジェクト 第1回オンライン国際交流企画 | ●受験者向け情報誌『登壇時代2020』12月号登壇ジャーナル中国四国エリア：掲載 ●愛媛新聞：掲載 |
| 2 | UNGL学生リーダーズ・サマースクール～愛大生等がオンラインでリーダーシップ研修会を実施！ | 報道機関から問い合わせ有り。日程が合わず取材なし。 |
| 3 | 自分の実践活動を自分で情報発信！-広報プレスリリースのススメ-愛媛大学・学生広報研修会 | 取材なし |
| 4 | 「高校生×大学生コラボ企画 歴史文化資源を活かしたまちづくりカレッジ」-愛媛大学生と高校生が地域課題を考えるワークショップを開催 | 愛媛新聞とNHKから問い合わせ有りも、取材なし。 |
| 5 | 環四国サイクリングプロジェクト 第2回オンライン国際交流企画～日・台学生制作 サイクリング動画 "YouTubeコンテスト" 開催！～ | ●NHK松山放送局：放映 ●南海放送：放映 |
| 6 | 集え愛附生！job(シゴト)とheart(ココロ)にzoom in！興味のある仕事・自分のタイプ発見企画 | 取材なし |
| 7 | 大学生らによる「オンライン国際交流会」愛媛大学×国立高雄科技大学（台湾） | ●テレビ愛媛：放映 ●NHK松山放送局：3回放映 |



図4 学生作成のプレスリリースシート、新聞記事等

3.2. 学生アンケート（選択式）の結果

参加者22名にアンケート協力を依頼し、21名から同意が得られた。

研修会への参加動機（複数選択可）について聞いたところ、「プレスリリースしたいことがある」と「デザインに興味がある」が最も多く26.7%であった。次いで、「報道機関や出版業界への就職を考えている」（20.0%）、「フライヤー制作に興味がある」（20.0%）など、広報したい事柄があったり、興味関心があること、就職との関連についての回答が多かった（表3）。

自身でプレスリリース・情報発信したことがあるかを聞いたところ、「はい」が52.4%、「いいえ」が47.6%と、

表3 参加動機（複数選択可）

| 項目 | 度数 | 割合 |
|---------------------|----|--------|
| 報道機関や出版業界への就職を考えている | 9 | 20.0% |
| プレスリリースしたいことがある | 12 | 26.7% |
| フライヤー制作に興味がある | 9 | 20.0% |
| デザインに興味がある | 12 | 26.7% |
| 履修している授業だから | 2 | 4.4% |
| その他 | 1 | 2.2% |
| 計 | 45 | 100.0% |

プレスリリースの経験がある参加者は約半数であった（表4）。また、「はい」と回答した参加者に、概要を記述式で聞いたところ、「市主催のプロジェクトをInstagramで周知した」、「ゼミ活動、サークル活動（学生祭実行委員会）のSNSやWebサイトでの情報周知」など、SNSを使った情報発信に関する回答が多かった。

表4 自身でプレスリリース・情報発信したことがある

| 項目 | 度数 | 割合 |
|---|----|--------|
| はい | 11 | 52.4% |
| いいえ | 10 | 47.6% |
| 計 | 21 | 100.0% |
| 「はい」と答えた内容 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・フライヤーで地域のまちあるき講座の周知をした。フライヤーとプレスリリースで本研修会の周知をした。 ・大学の掲示板にフライヤーを掲載したり、学生にフライヤーを配布した ・SNSや動画の作成を通して発信した ・ゼミ活動、サークル活動（学生祭実行委員会）のSNSやWebサイトでの情報周知 ・ポスター、チラシを用いて部活（団体）のイベント。Facebook、TV、SNSを用いてゼミ活動の宣伝・報告。 ・企画展のプレスリリース、Facebookで情報発信 ・FacebookでYouTube動画公開を周知した ・市主催のプロジェクトをinstagramで周知した ・Facebook、Instagramでイベントを周知した（イベント＝就活、文化祭の出し物、インターン先の食育イベントなど） ・Facebookでの授業報告 ・Facebookでワークショップ参加募集を周知した | | |

今回の研修会で学べて良かったことについて、複数選択可として聞いたところ、「フライヤーの作成方法」と「フライヤーのデザイン」が回答総数の16.2%と最も多く、次いで「プレスリリースをする際の注意点」と「フライヤー

表5 今回の研修会で学べて良かったこと（複数選択可）

| 項目 | 度数 | 割合 |
|---|-----|--------|
| プレスリリースとは何か | 14 | 12.6% |
| プレスリリースの書類の作成方法 | 16 | 14.4% |
| 広報スケジュールの立て方 | 10 | 9.0% |
| プレスリリースをする際の注意点 | 17 | 15.3% |
| フライヤーの作成方法 | 18 | 16.2% |
| フライヤーのデザイン | 18 | 16.2% |
| フライヤー制作実践 | 17 | 15.3% |
| その他 | 1 | 0.9% |
| <ul style="list-style-type: none"> ・デザインを他者の視点から見てもらってよい点、改善点を見つけること | | |
| 計 | 111 | 100.0% |

制作実践」が多く15.3%であった（表5）。

取り上げてほしいテーマ（複数選択可）について聞いたところ、「写真の撮り方・効果的な使い方」が最も多く55.6%であった。フライヤー作成には、伝えたい情報に合わせて写真を選び、強弱をつけて配置することなどが効果的であることが説明されたため、フライヤーで伝えたい中身に合わせて素材を集めるということが学べた結果、このような回答が多くなったと推察される（表6）。

表6 取り上げてほしいテーマ（複数選択可）

| 項目 | 度数 | 割合 |
|---|----|--------|
| 広報物の文章の書き方 | 5 | 18.5% |
| 写真の撮り方・効果的な使い方 | 15 | 55.6% |
| 動画の撮り方・編集 | 6 | 22.2% |
| その他 | 1 | 3.7% |
| <ul style="list-style-type: none"> ・デザインについてもっとお聞きしたいです。 | | |
| 計 | 27 | 100.0% |

表7 フライヤー制作ワークの人数

| 項目 | 度数 | 割合 |
|----|----|--------|
| 一人 | 3 | 14.3% |
| ペア | 18 | 85.7% |
| 数名 | 0 | 0.0% |
| 計 | 21 | 100.0% |

表8 時間は適当か

| 項目 | 度数 | 割合 |
|---|----|--------|
| 適当だった | 13 | 61.9% |
| 長かった | 0 | 0.0% |
| 短かった | 1 | 4.8% |
| 一部短かった | 6 | 28.6% |
| <ul style="list-style-type: none"> ・実践 ・フライヤー作成（2） ・説明をもっと聞きたかった ・講座、制作ともに15分ずつ足りない | | |
| 無回答 | 1 | 4.8% |
| 計 | 21 | 100.0% |

フライヤー制作ワークの人数は、何人くらいがよいと思うかについて聞いたところ、「ペア」との回答が85.7%を占めており、情報発信するイベント等をともに運営する仲間と相談しながら制作方法を学びたい参加者が多かった可能性がある（表7）。

研修会の時間は適当だったかを聞いたところ、6割以上の参加者が「適当だった」（61.9%）と回答しており、適切な研修時間であったといえる（表8）。

この研修会にまた参加したいかについて聞いたところ、「ぜひ参加したい」が90.5%と高く、満足できる研修内容であったと推察できる（表9）。

この研修会を友人等に勧めたいかについて聞いたところ、「強く勧めたい」が57.1%、「機会があれば勧めたい」が42.9%と、参加者全員が勧めたいとの回答であった（表10）。

表9 この研修会にまた参加したい

| 項目 | 度数 | 割合 |
|----------------|----|--------|
| ぜひ参加したい | 19 | 90.5% |
| 興味あるテーマなら参加したい | 2 | 9.5% |
| 参加したくない | 0 | 0.0% |
| 計 | 21 | 100.0% |

表10 この研修会を友人等に勧めたい

| 項目 | 度数 | 割合 |
|------------|----|--------|
| 強く勧めたい | 12 | 57.1% |
| 機会があれば勧めたい | 9 | 42.9% |
| 勧めたくない | 0 | 0.0% |
| 計 | 21 | 100.0% |

表11 研修会の感想

| |
|---|
| ・自分が取り組んでいる活動を情報公開・告知する上でのスキルを学ことができ勉強になった |
| ・ほかの人たちのフライヤーを見てどんなコンセプトで作成したのか実際に聞けたのはとても楽しくおもしろかった |
| ・今回学んだことを活かしてプレスリリースしたい |
| ・普段聞くことができない詳細なプレスリリースのコツや手法を知ることができ今後プレスをかけていく上で、貴重な経験だと感じます。 |
| ・即戦力になるスキルを教えていただき、今後の活動に活かしていきたいと思いました。 |
| ・いつも何気なく見ているチラシをよく観察して学びたいと思いました。 |
| ・プレスを行うことでのメリット・デメリットを学ぶことができ、上手くいけば取材やステークホルダーの方に知ってもらえる、支援してもらえる方が見つかるなど、プレスの重要度が分かった。 |
| ・実際にフライヤーを作ってみて、情報を3つにしばることや、写真・文字のレイアウト、色合いのむずかしさが改めて分かった。 |
| ・フライヤーの具体的な作成方法を学ぶことができました。 |
| ・今までパワーポイントでスライドを作ったりする時にも、色の統一性や割合、レイアウトなどに迷うことが多かったので、今回学んだ知識をプレスリリースの作成時はもちろん、スライド作成等でも活かしていこうと思います。 |
| ・作成中に配色を変えると作品そのものの印象を変えると感じたので6:3:1の比率を守りたいです。 |
| ・今後のフライヤー作成に参考になるような研修会でした。 |
| ・作成上の注意点やポイントなどを詳しく学ぶことができ、今後の作成に活かしていきたいと思いました。 |
| ・今回作ったフライヤーについての指導もいただけて、良いプロモーションができるよう作り上げていきたいと思いました。 |
| ・プレスリリースした後の広報活動も必要だと学ぶことができた。 |
| ・講義の部分は、初めて知ることばかりで今後プレスリリースをする際には活かしていきたい。 |
| ・フライヤーは今まで1度も作ったことがなかったので、何からやればよいかも分かりませんでした。ほかの班が実際に作成したものを見てイメージをつかむことができたので、これからは上手く作れるようになりたいです。 |
| ・フライヤーを作る際に意識すべきことをたくさん知ることができた。 |
| ・プレスリリースとは何か?と何もわかっていない状態での参加になってしまいましたが、内容や作成方法・注意点など基本的な事から教えていただいたので、楽しく、興味をもって学ぶことができました。 |
| ・プレスリリースを作ることにに対してデザインが得意な人だけができることと捉えていたので、1時間で完ぺきではありませんが伝えたいことを盛り込んだものを作れて良かったです。 |
| ・具体例はどれもセンスが良く、普段見ているフライヤーで、何故良いと思っていたのかの謎が解けたなあと感じました。プレスリリースという方法をもっと早く知っていれば...!と思いました。 |
| ・残り少ない大学生活のうちに1度でもプレスリリースしてみたいと思います。とても楽しいご講義をありがとうございました!! |
| ・もっと良くなるための、次に必要なことを聞きたかった。 |
| ・最初は実際にできるか不安でしたが、要点が分かりやすかったので、自分たちで作成することができました。 |
| ・実際に作成時のコツを教えてくださいのおかげで、自分が惹きつける側に回れそうな気がしました。自分の行うプロジェクトでも思う存分活用させていただきます!! |
| ・今まで何気なくフライヤーを見ていたけど、色や配置、レイアウトなどすべてのものが意味を持っているのだなと感じました。 |
| ・特に印象に残ったことは重要な点は3つにしばるとのことです。 |
| ・「プレスリリース」とは何なのかという所からその制作プロセス、さらにフライヤーのポイントについて学習させていただいた。学んだことを実践でき、素晴らしいフライヤーをつくりあげることができた。 |
| ・同一内容でもデザインが変われば伝わる内容が変わるという当たり前のことではあるがそれを視覚的に感じられ、さらにそうなる(そう感じられる)ロジックを知れたのでとてもおもしろかった。 |
| ・書くべき内容や伝え方、プレス対応者決めにいたるまで、紙一枚にまとめる以外に大事なことやその取り組み方を知れてよかった。とても短い時間に感じられたのは良い研修会であったなと心から感じている。 |

3.3. 学生アンケート(記述式)の結果

研修会の感想について、記述式で解答してもらったところ、「具体例はどれもセンスが良く、普段見ているフライヤーで、何故良いと思っていたのかの謎が解けたなあと感じました。プレスリリースという方法をもっと早く知っていれば...!と思いました」とあるように、学生のニーズがあることが伺えた(表11)。

また、「今までパワーポイントでスライドを作ったりする時にも、色の統一性や割合、レイアウトなどに迷うことが多かったので、今回学んだ知識をプレスリリースの作成時はもちろん、スライド作成等でも活かしていこうと思

ます」とあるように、プレゼンテーションスキル全般の向上に役立つことを示す意見があった。

さらに、「プレスリリースを作ることに對してデザインが得意な人だけができることと捉えていたので、1時間で完ぺきではありませんが伝えたいことを盛り込んだものを作れて良かったです」とあるように、講師が、講義の後に実践的な演習において指導を行ったことにより、デザインがそれほど得意ではない学生にも、自身につながる経験となったことが推察できる意見であった。

研修会終了後の要望（表12）について聞いたところ、製作時間の不足や、研修会を2回に分けて実施して欲しい、文章の書き方を知りたい等の要望があり、より深く学びたいという気持ちになったことを示す要望があった。

表12 研修会への要望

| |
|---|
| ・デザインや広報を専門にやっている人に教わる機会があれば良いと思います。 |
| ・作成時間（実践の時間）が足りなかったので、2回に分けて講座を開いてもらえたらうれしいです |
| ・今回は主にデザイン・レイアウトについての研修会でしたが、次は“中身”である文章の書き方を知りたいです |
| ・最初の時にフライヤーのテーマを準備する必要があるかどうかは教えてほしい。ペアでやったのでやりたいテーマや素材がある人がいなかった場合に困りそう。 |

3.4. メディア・新聞社への取材判断に関する調査

今回、了解が得られた2社に質問項目を送信し回答を得た。

調査の結果、①取材をしようと思った理由については、A新聞社からは、「これまで環四国サイクリングプロジェクト (<https://www.ehime-u.ac.jp/post-132537/>) をしっかりと取材させてもらう機会がなかったこと」、「(環四国サイクリングプロジェクトが) 学生さん主体の活動であること」、「(環四国サイクリングプロジェクトを) 初めてオンラインで実施するということ」との回答があった。また、B地方テレビ局からは、「大学生のオンラインでの国際交流という内容で取材を決定した」との回答であった。

②学生によるプレスリリースであったことの影響については、A新聞社からは「基本的には影響はないが、愛媛大学様への取材だと基本的にメディアは「初めて」「学生さんの活動」「他県での事例があまりないこと」などのキーワードがあれば、より取材が多くなるのではないか」との回答であった。B地方テレビ局からは「学生さんが作ったリリースが大学生らしくユニークなモノであったりなど、よほどのことでない限りはリリースをいただく側として

は、作成者が誰であるかは取材の是非決定には影響しないと思います。正直、どなたが作成者であるかよりも取材日時・場所・内容・スケジュール等メディアが知りたいこと、興味をそそりそうなことをきちんと簡潔丁寧に書いていたいただきたい」、「学生さんの教育という観点ではリリース作成していただくのは非常にいい試みだと思います。ただ、それが取材是非の決定に影響することはほとんどない」との回答であった。

4. 考察

4.1. 研修会の成果について

定員に近い参加者があり、学生にとって関心のある内容であることがわかる。参加者の所属は、社会共創学部が最も多かったことについては、授業やゼミ等で地域をフィールドに、様々なイベントや企画を行っていることから、特に関心が高かったと思われる。今回、新型コロナウイルス感染症対策として、24名という抑えた人数の募集となったが、法文学部や教育学部、大学院からの参加もあったことから、定員や回数を増やすことで受講機会を確保できれば、さらに多くの人数や他の学部からの参加が見込まれる。

参加者の作成したプレスリリースとフライヤーを実際にメディアに送付できたことにより、取材や放映などの実績（表2）を生むことができた。このことは、後日、取材につながったプレスリリースを作成した学生に聞いたところ、非常に大きな達成感を得ており、自分たちの活動を情報発信することの意義を感じ、積極的な広報活動へのモチベーションとなっているとのことであった。さらに、メディアへの就職を意識して参加している学生にとっては、大きな自信につながったようである。

4.2. 学生アンケート結果（選択式）について

参加動機は、自分たちの活動を広報したいというものとデザインへの関心を挙げるものが多かった。このことは、情報発信したいことがある学生が多かったことを示しており、発信方法がわからないために、広報につながっていない学生活動があることが推察できる。今後、プレスリリースをはじめとする情報発信方法に関する研修会を継続的に実施することで、地域に向けた大学の魅力を発信する機会の増加につながると考える。また、「報道機関や出版業界への就職を考えている」と回答した学生が9名おり、内訳は1回生1名、2回生3名、3回生3名、4年生1名、大学院生1名と幅広い学生が動機として挙げており、就職支援にもつながっている可能性がある。

情報発信したいことがある学生とない学生の割合は半々であり、必ずしも、発信したい情報がなくても、情報発信スキルとして身につけたいというニーズがあることがわかる。

研修会で学べて良かったことについては、作成方法やデザインといった実践的な内容であった。このことは、今回の研修会が、講義のみではなく実際の作成過程を、講師の指導のもとで行うことができ、目に見える成果を得ることができた点が大きいと考えられる。このような、目に見える成果は、次の参加者の動機を高める可能性もあり、次回の募集の際には、これらの成果とともに広報することで効果的な募集が行えると考える。

取り上げてほしいテーマについては、写真の撮り方・効果的な使い方が多く回答されておりプレスリリースというものを通じて、プレゼンテーションスキルの一つである画像で伝えるという方法をもっと知りたいと感じることにつながったと思われる。

今回、フライヤーの作成はペアで行ったが、参加者にとって適当であったかを確認するために、人数について聞いたところ、「今回の実施形態と同じ」、「ペアが良い」との回答が最も多く、今回の実施方法が妥当であったことがわかる。

研修時間については、「適当だった」との意見が多かったが、要望の中に、「時間の不足や開催回数を増やしてほしい」との意見もあり、非常に充実した研修内容であったことが伺える。1回の研修時間としては休憩を挟みながらの3時間という長さが適当であることがわかった。

この研修会にまた参加したいかや友人に勧めたいかの問いについては、「ぜひ参加したい」「(友人等に)強く勧めたい」との回答が大半を占め、学生の興味関心の高さが伺えた。学生による広報という新たな視点による本研修会は、学生が自分たちの活動をどうアピールしていくことが可能であるのかについて考え、その方法を学ぶ場となった。

4.3. 学生アンケート（記述式）について

研修会の感想は、すべてが初めて知ったことや学べたことへのポジティブな感想や研修会企画への感謝が述べられたものであった。

特に、自分たちが取り組んでいる活動を情報公開するためのスキルが身についたことや、情報発信の重要性への気づきを記述したものが多かった。これらのことから、学生の活動には、まだ十分に発信されていない情報が多くあることが推察され、学生が情報発信の方法を学ぶ機会を設けることの重要性が伺えた。また、学生が自分たちの活動を広報することの重要性を理解することで、大学が地域に向けて発信する情報を集約できるとともに、大学での取り組みを地域に広く周知することが可能になると考えられる。

今回は、プレスリリースの作成がテーマであったが学生は講義や実践からプレゼンテーションスキルと情報の整理の仕方、人間の知覚の特性、見せる工夫とその理由等、今後の学習や就職後にも活用できる内容を学習していた。また、研修会がとても楽しかった、もっと学びたい、自分も

できる等、意欲が高まったことを示す感想が多かったことから、今後の学習活動に対して主体的に取り組むことにもつながったのではないかと考える。

要望には、研修時間に関する回答の考察でも述べた通り、作成時間の不足や2回に分けてほしいとの要望のほか、事前にテーマの準備が必要であることを知らせてほしい等の意見があり、次回以降の運営で反映させていきたい。

4.4. メディア・新聞社への取材判断に関する調査

2つのメディアから得られた回答では、取材をするかどうかの判断は、内容がどのようなものであるかが大きいため、プレスリリースには、取材日時、場所、内容、スケジュール等メディアが知りたいことを含めるとともに、「初めて」、「学生さんの活動」、「他県での事例があまりない」等のキーワードがあればより取材に結びつきやすいとの意見であった。当初、学生によるプレスリリースであることが、取材決定へのプラス要素になるのではないかと予想したが、それよりも発信された内容によって判断するということであった。そのため、学生が作成したかどうかではなく、学生の活動であることや、メディアの知りたい内容が簡潔丁寧に掲載されていることが最も重要であることがわかった。このことは、今後の学生によるプレスリリースのあり方や大学の支援範囲や方法を検討する材料となるものだと考える。

5. まとめ

今回は、新型コロナウイルス感染症への対策のため、時間や回数を制限せざるを得ない事情があったが、学生の充実感が高く、有意義な研修会となったといえる。学生の達成感だけでなく、実際に取材や放映につながった発信が8件あり、学生によるプレスリリース作成という新たな取り組みを進めた成果といえる。次回以降はシリーズ化や回数を増やしての実施等を検討するための情報を収集する機会ともなった。

今後の課題としては、学生が書いたプレスリリースの文章の添削作業を現在、ゼミの担当教員、学生の活動を支援している教職員および部署が行っているが、プレスリリース件数が増えた場合、作業の効率化が必要と思われる、そのための仕組み作りが必要である。

また、学生が自分たちの活動を発信しやすくなれば、大学広報の情報が集まりやすくなり、地域やメディアに発信できる機会が増え、地域に開かれた大学としての印象にもつながると考える。可能であれば、次年度以降は、学生だけでなく、教職員向けの開催も検討する等、大学全体で活発に情報を発信することを当たり前の文化として醸成されていくことが望まれる。

引用文献

- 川戸和英, 伊吹勇亮 (2004), 大学における戦略広報, 日本広報学会第10回研究発表大会予稿集, 日本広報学会, 67-70.
- 平尾智隆, 大竹奈津子, 久保研二, 山内一祥 (2011), ある国立大学における入試広報の効果測定—志望順位を決定する要因—, 大学評価・学位研究 第12号, 17-28.
- Maringe, Felix (2006), "University and Course Choice: Implication for Positioning, Recruitment and Marketing," International Journal of Educational Management, 20 (6), 466-479.
- 村松毅, 寺下榮, 田中勝 (2007) 『対面型』入試広報の効果測定に関する調査, 大学入試研究ジャーナル, 17, 163-168.
- 望月由起 (2008), 職業観の育成を意識した大学入試広報に関する一事例—卒業生や就職内定者による講演の成果: キャリアデザイン研究, 4, 131-137.
- 西澤正己, 孫媛 (2013), 学術研究のメディア報道における定量的調査研究—プレスリリースと新聞報道の関係—, 情報知識学会誌, 23 (2), 279-285.
- 竹内光悦 (2010), 大学広報における広報媒体の効果測定とその展開, 実践女子大学人間社会学部紀要, 6, 199-203.